



オンライン診断の設定

この章では、デバイス上で汎用オンライン診断（GOLD）機能を設定する方法について説明します。

- [オンライン診断について, on page 1](#)
- [オンライン診断の注意事項と制約事項 \(12 ページ\)](#)
- [オンライン診断のデフォルト設定 \(13 ページ\)](#)
- [オンライン診断の設定 \(14 ページ\)](#)
- [オンライン診断設定の確認, on page 18](#)
- [オンライン診断のコンフィギュレーション例 \(19 ページ\)](#)

オンライン診断について

オンライン診断機能を使用すると、デバイスをアクティブネットワークに接続したまま、デバイスのハードウェア機能をテストして確認できます。

オンライン診断機能には、さまざまなハードウェア コンポーネントを検査し、データパスと制御信号を確認するテストが組み込まれています。中断を伴うオンライン診断テスト（破壊モードのループバック テストなど）、および中断を伴わないオンライン診断テスト（ASIC レジスタ検査など）は、起動時、ライン モジュールの活性挿抜（OIR）時、およびシステムリセット時に実行されます。中断を伴わないオンライン診断テストは、バックグラウンドヘルスマonitoringの一部として実行され、これらのテストはオンデマンドで実行できます。

オンライン診断は、起動、ランタイムまたはヘルスマonitoring診断、およびオンデマンド診断に分類されます。起動診断は起動時に、ヘルスマonitoringテストはバックグラウンドで、オンデマンド診断はアクティブネットワークにデバイスが接続されたときに1回だけ、またはユーザが指定した間隔で実行されます。

ブートアップ診断

起動診断は起動中に実行され、Cisco NX-OS がモジュールをオンラインにする前に、障害ハードウェアが検出されます。たとえば、デバイスに障害モジュールを搭載した場合、起動診断で

モジュールがテストされ、デバイスがそのモジュールをトラフィックの転送に使用しないうちに、モジュールがオフラインにされます。

起動診断では、スーパーバイザとモジュールハードウェア間、およびすべての ASIC のデータパスと制御パス間の接続も検査されます。次の表では、モジュールおよびスーパーバイザの起動診断テストについて説明します。

Table 1: ブートアップ診断

診断	説明
OBFL	オンボード障害ロギングフラッシュ (Cisco NX-OS) の整合性を確認します。
MacSecPortLoopback (Cisco Nexus 9736C-FX および 9736Q-FX ラインカードのみ)	<p>スーパーバイザから ASIC の各物理前面パネルポートへのパケットパス、各ポートの MACSEC 機能、および Cisco Nexus 9736C-FX および 9736Q-FX ラインカードの暗号化機能と復号化機能をテストします。 diagnostic bootup level が complete に設定されている場合、ブート時に MacSecPortLoopback テストが実行されます。</p> <p>MacSecPortLoopback テストは、Cisco Nexus 9736C-FX および 9736Q-FX ラインカードの 36 個の前面ポートのすべてのポートで実行されます。MAC sec ハードウェアは、使用可能な 4 つの暗号スイートアルゴリズム (GCM-AES-128、GCM-AES-256、GCM-AES-XPN-128、および GCM-AES-XPN-256) でテストされます。</p> <p>Note MacSecPortLoopback テストが失敗すると、テストは SYSLOG または OBFL の形式でレポートします。テスト障害が発生すると、ポートがダウンし、 show interface CLI 出力に MACsec 障害が表示されます。MACsec テストをスキップするには、 diagnostic bootup level を minimal または bypass に設定します。</p>
USB	中断を伴わないテスト。モジュールにおける USB コントローラの初期化を検査
ManagementPortLoopback	中断を伴うテスト、非オンデマンド型テスト。モジュールの管理ポートでループバックをテスト
EOBCPortLoopback	中断を伴うテスト、非オンデマンド型テスト。イーサネット帯域外。

起動診断テストはエラーを Onboard Failure Logging (OBFL) および syslog に記録し、診断の LED 表示 (オン、オフ、合格、失敗) を開始します。

起動診断テストをバイパスするようにデバイスを設定することも、またはすべての起動診断テストを実行するように設定することもできます。

ランタイムまたはヘルス モニタリング診断

ランタイム診断はヘルスモニタリング (HM) 診断ともいいます。これらの診断テストによって、アクティブデバイスの状態に関する情報が得られます。ランタイムハードウェアエラー、メモリエラー、ハードウェアモジュールの経時的劣化、ソフトウェア障害、およびリソース不足が検出されます。

アクティブネットワークトラフィックを処理するデバイスの状態を確認するヘルスモニタリング診断テストは、中断を伴わず、バックグラウンドで実行されます。ヘルスモニタリングテストはイネーブルまたはディセーブルにできます。また、ランタイムインターバルの変更が可能です。

次の表に、モジュールおよびスーパーバイザのヘルスモニタリング診断とテストIDを示します。



- (注) モジュールの機能に応じて、テストが存在する場合と存在しない場合があります。モジュールで使用可能なテストのリストは、CLI コマンド、**show diagnostic content module <module>** を使用して確認できます。

表 2: ヘルス モニタリングの無停止での診断

診断	デフォルトのインターバル	デフォルト設定	説明	改善処置
モジュール				
ACT2	30 分	アクティブ	モジュール上のセキュリティ デバイスの整合性を確認します。	GOLD "ACT2" テストに 20 回連続で失敗した場合は、CallHome を実行し、エラーを記録し、その後 HM テストをディセーブルにします。

診断	デフォルト のインター バル	デフォルト 設定	説明	改善処置
ASICRegisterCheck	モジュラ スイッチ： 1分 非モジュラ スイッチ： 20秒、最 小設定のデ フォルト シミュレー ション間隔 は10秒	アクティ ブ	モジュール上の ASIC への読み取 り/書き込みアク セスを検証しま す。	CallHome を実行し、エ ラーを記録し、GOLD "ASICRegisterCheck" テス トに20回連続で失敗した 場合は、その後その ASIC デバイスおよびインスタ ンスの HM テストをディ セーブルにします。
PrimaryBootROM	24 時間 1	アクティ ブ	モジュール上のプ ライマリ ブート デバイスの完全性 を確認します。	CallHome を実行し、エ ラーを記録し、GOLD "PrimaryBootROM" テス トに20回連続で失敗した場 合は、その後 HM テスト をディセーブルにします。
SecondaryBootROM	24 時間 1	アクティ ブ	モジュール上のセ カンダリ ブート デバイスの完全性 を確認します。	CallHome を実行し、エ ラーを記録し、GOLD "SecondaryBootROM" テス トに20回連続で失敗した 場合は、その後 HM テス トをディセーブルにしま す。

診断	デフォルト のインター バル	デフォルト 設定	説明	改善処置
BootupPortLoopback	起動時のみ	起動時のみ：アクティブ	スーパーバイザから前面パネルのポート（および背面）パスが動作しているかどうかを確認します。すべてのフロントポートについて、テストはアクティブスーパーバイザでパケットを生成し、ターゲットポートにパケットを送信し、フロントポート内の内部ループバックを使用して、パケットをアクティブスーパーバイザにリダイレクトします。	GOLD "BootupPortLoopback" テストに1回連続で失敗した場合は、CallHome を実行し、影響があるポートのエラーを無効にして、影響を受けたポートでのエラーテストを記録します。
PortLoopback	30 分	アクティブ	すべての管理ダウンポートでポート単位で診断をチェックします。	CallHome を実行し、Syslog、OBFL、または例外ログにエラーを記録し、GOLD "PortLoopback" テストに 10 回連続で失敗した場合は、その後影響を受けたポートでの HM テストをディセーブルにします。
RewriteEngineLoopback	1分	アクティブ	1 エンジン ASIC デバイスまでのすべてのポートの無停止ループバックの整合性を確認します。	CallHome を実行し、Syslog、OBFL、または例外ログにエラーを記録し、GOLD "RewriteEngine" テストに 10 回連続で失敗した場合は、その後影響を受けたポートでの HM テストをディセーブルにします。

診断	デフォルト のインター バル	デフォルト 設定	説明	改善処置
AsicMemory	起動時のみ	起動時のみ：非アクティブ	ASIC の Mbist ビットを使用して AsicMemory の整合性をチェックします。	GOLD "AsicMemory" テストに失敗した場合には、CallHome を実行し、エラーを記録します。テストの失敗の原因となる問題は一時的なものである可能性があるため、カーネルパニックによるリカバリ リロードを試行します。 (注) テストが失敗したときにカーネルパニックを回避するには、EEM システムポリシーを上書します。
FpgaRegTest	30 秒	ヘルス モニタリングテスト：30 秒ごと：アクティブ	FPGA への読み取り/書き込みによって FPGA のステータスをテストします。	GOLD "FpgaRegTest" テストに 20 回連続で失敗した場合は、CallHome を実行し、エラーを記録し、その後 HM テストをディセーブルにします。テストの失敗の原因となる問題は一時的なものである可能性があるため、カーネルパニックによるリカバリ リロードを試行します。 (注) テストが失敗したときにカーネルパニックを回避するには、EEM システムポリシーを上書します。

診断	デフォルト のインター バル	デフォルト 設定	説明	改善処置
L2ACLRedirect	1分	ヘルスモ ニタリン グ テス ト：30 分：アク ティブ	アクティブ ノー ドが動作している かどうかを確認し ます。テストで は、アクティブ ファブリックモ ジュールを介して アクティブスー パーバイザでパ ケットを生成しま す。次に、パケッ トを前面パネル ポート（ライン カード上の物理イ ンターフェイス） に送信し、ACL エントリを使用し て、パケットをア クティブスー パーバイザにリダ イレクトします。	L2ACLRedirect テストを10 回連続で失敗した場合は、 CallHome を実行し、エ ラーを記録し、その後HM テストをディセーブルにし ます。テストの失敗の原因 となる問題は一時的なもの である可能性があるため、 カーネルパニックによるリ カバリ リロードを試行し ます。 (注) テストが失敗 したときに カーネルパ ニックを回避 するには、 EEM システム ポリシーを上 書します。
OBFL	30 分	アクティ ブ	オンボード障害ロ ギング（OBFL） フラッシュの整合 性を確認し、デバ イスの利用可能な ストレージをモニ タリングします。	

診断	デフォルト のインター バル	デフォル ト設定	説明	改善処置
FabricConnectivityTest	1分	アクティ ブ	<p>ファブリック/ラ インカードのリン ク ステータスを 確認します。</p> <p>ファブリック リ ンクが機能してい ることを検証しま す。</p> <p>(注) Cisco Nexus 9500-R シ リー ズラ イン カー ドで のみ 使用 でき ます。</p>	

診断	デフォルト のインター バル	デフォルト 設定	説明	改善処置
FabricReachabilityTest	1分	アクティ ブ	<p>ファブリック/ラ インカードの到 達可能性ステー タスを確認しま す。</p> <p>各ファブリック コンポーネント に、システム内 の他のすべての ファブリック コンポーネント への有効なパス があることを 検証します。</p> <p>(注) Cisco Nexus 9500-R シ リー ズ ラ イ ン カ ー ド で の み 使 用 で き ま す。</p>	
スーパーバイザ (Supervisor)				
バックプレーン	30分	アクティ ブ	バックプレーン SPROM デバイス の整合性を確認 します。	
NVRAM	5分	アクティ ブ	スーパーバイザ のNVRAMブロッ クの健全性を 確認します。	CallHome を実行し、エ ラーを記録し、GOLD "NVRAM" テストに 20 回 連続で失敗した場合は、そ の後 HM テストをディ セーブルにします。

診断	デフォルト のインター バル	デフォルト 設定	説明	改善処置
RealTimeClock	5 分	アクティ ブ	スーパーバイザ上 のリアルタイム クロックが時を刻 んでいるかどうか を確認します。	CallHome を実行し、エ ラーを記録し、GOLD "RealTimeClock" テストに 20 回連続で失敗した場 合は、その後 HM テストを ディセーブルにします。
PrimaryBootROM	30 分	アクティ ブ	スーパーバイザ上 のプライマリ ブート デバイス の完全性を確認し ます。	CallHome を実行し、エ ラーを記録し、GOLD "PrimaryBootROM" テスト に 20 回連続で失敗した場 合は、その後 HM テスト をディセーブルにします。
SecondaryBootROM	30 分	アクティ ブ	スーパーバイザ上 のセカンダリ ブート デバイス の完全性を確認し ます。	CallHome を実行し、エ ラーを記録し、GOLD "SecondaryBootROM" テス トに 20 回連続で失敗した 場合は、その後 HM テス トをディセーブルにし ます。
ブートフラッシュ	30 分	アクティ ブ	ブートフラッシュ デバイスへのアク セスを確認しま す。	GOLD "CryptoDevice" テス トに失敗したら、 CallHome を実行し、エ ラーを記録します。
USB	30 分	アクティ ブ	USB デバイスへの アクセスを確認し ます。	Call Home を実行し、 GOLD "USB" テストに失 敗するとエラーを記録し ます。
SystemMgmtBus	30 秒	アクティ ブ	システム管理バス の使用可能性を確 認します。	Call Home を実行し、エ ラーを記録し、GOLD "SystemMgmtBus" テストに 20 回連続で失敗した場 合は、そのファンまたは電源 の HM テストを無効にし ます。

診断	デフォルトのインターバル	デフォルト設定	説明	改善処置
MCE	30 分	ヘルスモニタリングテスト：30分：アクティブ	このテストは <code>mcd_dameon</code> を使用し、カーネルによって報告されたマシンチェックエラーを報告します。	GOLD "ACT2" テストに 20 回連続で失敗した場合は、 <code>CallHome</code> を実行し、エラーを記録し、その後 HM テストをディセーブルにします。
Pcie	起動時のみ	起動時のみ：非アクティブ	PCIe ステータスレジスタを読み取り、PCIe デバイスのエラーをチェックします。	GOLD "Pcie" テストに失敗したら、 <code>CallHome</code> を実行し、エラーを記録します。
コンソール	起動時のみ	起動時のみ：非アクティブ	これにより、起動時に管理ポートでポートループバックテストが実行され、整合性が確認されます。	GOLD "Cosole" テストに 20 回連続で失敗した場合は、 <code>CallHome</code> を実行し、エラーを記録し、その後 HM テストをディセーブルにします。
FpgaRegTest	30 秒	ヘルスモニタリングテスト：30秒ごと：アクティブ	FPGA への読み取り/書き込みによって FPGA のステータスをテストします。	GOLD "FpgaRegTest" テストに 20 回連続で失敗した場合は、 <code>CallHome</code> を実行し、エラーを記録し、その後 HM テストをディセーブルにします。テストの失敗の原因となる問題は一時的なものである可能性があるため、カーネルパニックによるリカバリリロードを試行します。 (注) テストが失敗したときにカーネルパニックを回避するには、EEM システムポリシーを上書します。

¹ 設定可能な最小テスト間隔は 6 時間です。

オンデマンド診断

オンデマンドテストは、障害の場所を特定するのに役立ちます。通常は、次のような状況が必要です。

- 障害の分離など、発生したイベントに対処する場合。
- リソース使用限度の超過などのイベントの発生が予測される場合。

すべてのヘルス モニタリング テストをオンデマンドで実行できます。即時実行するオンデマンド診断テストをスケジュールリングできます。

ヘルス モニタリング テストのデフォルト インターバルも変更可能です。

高可用性

ハイアベイラビリティの重要な機能は、アクティブなネットワークでデバイスが稼働している状態のままハードウェア障害を検出して、対処することです。ハイアベイラビリティのオンライン診断では、ハードウェア障害を検出して、スイッチオーバーを判断するためにハイアベイラビリティ ソフトウェアにフィードバックします。

Cisco NX-OS は、オンライン診断のステートレス リスタートをサポートします。リポートまたはスーパーバイザスイッチオーバーの後、Cisco NX-OS は実行コンフィギュレーションを適用します。

仮想化のサポート

オンライン診断機能は Virtual Routing and Forwarding (VRF) を認識します。特定の VRF を使用してオンライン診断 SMTP サーバに接続するようにオンライン診断機能を設定できます。

オンライン診断の注意事項と制約事項

オンライン診断には、次の注意事項と制限事項があります。

- 次の Cisco Nexus プラットフォーム スイッチおよびラインカードは、ランタイム PortLoopback テストをサポートしていませんが、BootupPortLoopback テストをサポートしています。

スイッチ

- Cisco Nexus 92160YC-X
- Cisco Nexus 92304QC
- Cisco Nexus 9264PQ
- Cisco Nexus 9272Q
- Cisco Nexus 9232C

- Cisco Nexus 9236C
- Cisco Nexus 9256PV
- Cisco Nexus 92300YC
- Cisco Nexus 93108TC-EX
- Cisco Nexus 93108TC-EX-24
- Cisco Nexus 93180LC-EX
- Cisco Nexus 93180YC-EX
- Cisco Nexus 93180YC-EXU
- Cisco Nexus 93180YC-EX-24
- Cisco Nexus 93180YC-FX3S

ラインカード

- Cisco Nexus 9736C-EX
 - Cisco Nexus 97160YC-EX
 - Cisco Nexus 9732C-EX
 - Cisco Nexus 9732C-EXM
- 中断を伴うオンライン診断テストをオンデマンド方式で実行することはできません。
 - インターフェイス Rx および Tx パケット カウンタは、シャットダウン状態のポートで増えます（およそ 15 分ごとに 4 パケット）。
 - PortLoopback テストは定期的に行われるため、パケット カウンタは管理ダウン ポートで 30 分ごとに追加されます。テストは管理ダウン ポートでのみ実行されます。ポートが閉じられている場合は、カウンタは影響を受けません。
 - ポートごとの BootupPortLoopback テストでポートが失敗すると、ポートは errdisable ステートになります。（この状態を削除するには、ポートで **shutdown** および **no shutdown** およびコマンドを入力します）。

オンライン診断のデフォルト設定

次の表に、オンライン診断パラメータのデフォルト設定を示します。

パラメータ	デフォルト
起動時診断レベル	complete
中断を伴わないテスト	アクティブ

オンライン診断の設定



(注) この機能の Cisco NX-OS コマンドは、Cisco IOS のコマンドとは異なる場合がありますので注意してください。

起動診断レベルの設定

一連のすべてのテストを実行するように起動時診断を設定することも、またはモジュールが短時間で起動するように、すべての起動時診断テストをバイパスするように設定することもできます。



(注) 起動時オンライン診断レベルを **complete** に設定することを推奨します。起動時オンライン診断をバイパスすることは推奨しません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	diagnostic bootup level {complete minimal bypass} 例 : <pre>switch(config)# diagnostic bootup level complete</pre>	デバイスの起動に続いて診断テストが開始されるように、起動診断レベルを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • complete : すべての起動診断テストを実行します。complete がデフォルトです。 • minimal : スーパーバイザエンジンおよびブートアップ ポートのループバック テスト用の最小限のブートアップ診断を実行します。 • bypass : 起動診断テストをまったく実行しません。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	(任意) show diagnostic bootup level 例： <pre>switch(config)# show diagnostic bootup level</pre>	デバイスに現在設定されている起動診断レベル (bypass または complete) を表示します。
ステップ 4	(任意) copy running-config startup-config 例： <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

診断テストのアクティブ化

診断テストをアクティブに設定し、任意でテストの実行間隔 (時間、分、秒単位) を変更できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します
ステップ 2	diagnostic monitor interval module slot test [test-id name all] hour hour min minute second second 例： <pre>switch(config)# diagnostic monitor interval module 6 test 3 hour 1 min 0 second 0</pre>	指定されたテストを実行する間隔を設定します。インターバルを設定しなかった場合は、過去に設定されたインターバルまたはデフォルトのインターバルでテストが実行されます。 引数の範囲は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>slot</i> : 範囲は 1 ~ 10 です。 • <i>test-id</i> : 範囲は 1 ~ 14 です。 • <i>name</i> : 32 文字以内の英数字のストリング (大文字と小文字を区別) で指定します。 • <i>hour</i> : 範囲は 0 ~ 23 時間です。 • <i>minute</i> : 範囲は 0 ~ 59 分です。 • <i>second</i> : 範囲は 0 ~ 59 秒

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<p>[no] diagnostic monitor module slot test <i>[test-id name all]</i></p> <p>例 :</p> <pre>switch(config)# diagnostic monitor interval module 6 test 3</pre>	<p>指定されたテストをアクティブにします。</p> <p>引数の範囲は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>slot</i> : 範囲は 1 ~ 10 です。 • <i>test-id</i> : 範囲は 1 ~ 14 です。 • <i>name</i> : 32 文字以内の英数字のストリング (大文字と小文字を区別) で指定します。 <p>このコマンドの [no] 形式は、指定されたテストを非アクティブにします。非アクティブにしたテストでは、現在の設定が維持されますが、スケジュール上の間隔ではテストは実行されません。</p>
ステップ 4	<p>(任意) show diagnostic content module <i>{slot all}</i></p> <p>例 :</p> <pre>switch(config)# show diagnostic content module 6</pre>	<p>診断テストおよび対応する属性の情報を表示します。</p>

オンデマンド診断テストの開始または中止

オンデマンド診断テストを開始または中止できます。任意で、このテストを繰り返す回数の変更や、テストが失敗した場合のアクションの変更を行えます。

スケジューリングされたネットワークメンテナンス期間内に、破壊モードの診断テストを開始する場合は、手動での開始に限定することを推奨します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>(任意) diagnostic ondemand iteration <i>number</i></p> <p>例 :</p> <pre>switch# diagnostic ondemand iteration 5</pre>	<p>オンデマンドテストの実行回数を設定します。範囲は 1 ~ 999 です。デフォルトは 1 です。</p>
ステップ 2	<p>(任意) diagnostic ondemand action-on-failure <i>{continue failure-count num-fails stop}</i></p> <p>例 :</p>	<p>オンデマンドテストが失敗した場合のアクションを設定します。<i>num-fails</i> の範囲は 1 ~ 999 です。デフォルトは 1 です。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
	switch# diagnostic ondemand action-on-failure stop	
ステップ 3	<p>必須: diagnostic start module slot test [<i>test-id</i> <i>name</i> all non-disruptive] [port <i>port-number</i> all]</p> <p>例: switch# diagnostic start module 6 test all</p>	モジュール上で1つまたは複数の診断テストを開始します。モジュールスロットの範囲は1～10です。 <i>test-id</i> の範囲は1～14です。テスト名は大文字と小文字を区別し、最大32の英数字を使用できます。ポート範囲は1～48です。
ステップ 4	<p>必須: diagnostic stop module slot test [<i>test-id</i> <i>name</i> all]</p> <p>例: switch# diagnostic stop module 6 test all</p>	モジュール上で1つまたは複数の診断テストを中止します。モジュールスロットの範囲は1～10です。 <i>test-id</i> の範囲は1～14です。テスト名は大文字と小文字を区別し、最大32の英数字を使用できます。
ステップ 5	<p>(任意) show diagnostic status module slot</p> <p>例: switch# show diagnostic status module 6</p>	診断テストがスケジューリングされていることを確認します。

診断結果のシミュレーション

診断テスト結果のシミュレーションが可能です。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>diagnostic test simulation module slot test <i>test-id</i> {fail random-fail success} [port <i>number</i> all]</p> <p>例: switch# diagnostic test simulation module 2 test 2 fail</p>	テスト結果のシミュレーションを行います。 <i>test-id</i> の範囲は1～14です。ポート範囲は1～48です。

診断結果の消去

診断テスト結果を消去できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	diagnostic clear result module [<i>slot</i> all] test { <i>test-id</i> all } 例： <pre>switch# diagnostic clear result module 2 test all</pre>	指定されたテストのテスト結果を消去します。 引数の範囲は次のとおりです。 • <i>slot</i> : 範囲は 1 ~ 10 です。 • <i>test-id</i> : 範囲は 1 ~ 14 です。
ステップ 2	diagnostic test simulation module <i>slot</i> test <i>test-id</i> clear 例： <pre>switch# diagnostic test simulation module 2 test 2 clear</pre>	シミュレーションしたテスト結果を消去します。 <i>test-id</i> の範囲は 1 ~ 14 です。

オンライン診断設定の確認

オンライン診断設定情報を表示するには、次の作業を行います。

コマンド	目的
show diagnostic bootup level	起動診断に関する情報を表示します。
show diagnostic content module { <i>slot</i> all }	モジュールの診断テスト内容に関する情報を表示します。
show diagnostic description module <i>slot</i> test [<i>test-name</i> all]	診断テストの説明を表示します。
show diagnostic events [error info]	診断イベントをエラーおよび情報イベントタイプ別に表示します。
show diagnostic ondemand setting	オンデマンド診断に関する情報を表示します。
show diagnostic result module <i>slot</i> [test [<i>test-name</i> all]] [detail]	診断結果に関する情報を表示します。
show diagnostic simulation module <i>slot</i>	シミュレーションした診断テストに関する情報を表示します。
show diagnostic status module <i>slot</i>	モジュールのすべてのテストについて、テスト状況を表示します。
show hardware capacity [eobe forwarding interface module power]	ハードウェアの機能、およびシステムによる現在のハードウェア使用率の情報を表示します。

コマンド	目的
show module	オンライン診断テストの状況を含むモジュール情報を表示します。

オンライン診断のコンフィギュレーション例

この例は、モジュール 6 ですべてのオンデマンドテストを開始する方法を示しています。

```
diagnostic start module 6 test all
```

この例は、モジュール 6 でテストテスト 2 をアクティブにして、テストインターバルを設定する方法を示しています。

```
configure terminal  
diagnostic monitor module 6 test 2  
diagnostic monitor interval module 6 test 2 hour 3 min 30 sec 0
```


翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。